

法雲寺報

法雲寺
2011/1/1発行
兵庫県美方郡香
美町村岡区村岡
2365

新年もよろしく お願いいたします

平成二十三年の干支は卯。本年は兔にあやかっただけで良き飛躍が出来る一年となります(うさぎ)...

町村合併や政権交代と変化や現状改善の希望を持って臨んだことも、その実



を身近に感じること無く、却って以前にまよって混迷の色を増して居ます。

この村岡を取り巻く状況も、年毎に活気が薄れ、空地や空家ばかりが目立つように思えます。しかし、これは村岡だけの事



干支絵馬と

延暦寺のお札

絵馬は背面に願い事など書いて、神棚や仏壇等にお飾り下さい。本年は「延暦寺のお札」をお配りさせて頂きます。

古くなった絵馬・お札等はドンドの時に出すか、寺社のお札奉納箱に納めて下さい。

ではなく、地方の町村ではどこも同じような状況なのかも知れません。かと云って、「地方の活性化」を自己保身に追われてる政治には期待出来そうに有りませんし、「地方の衰退」を一番身近に感じて居る我々自身

が何か行動を起こし、衰退に至る流れを変える試みを考えてみる必要が在るように思えます。

「但馬七花寺霊場」

法雲寺檀家さんには何度か説明させて頂きました。但馬の七つのお寺で連携して「七花寺霊場」を結成しようと準備中です。(H23/7正式発足・H24/4開創予定)

お寺は維持運営するに相応しい数の檀家さんがあって初めてお寺として成り立って行くものです。現在の様な地方を取り巻く疲弊した状況では、やがては、檀家数激減の現実面に直面する時が来ると考えます。

各お寺さんでは夫々の立場でそのような時代の変化に備えて色々と策を練っ

て居られることでしょうか。法雲寺の場合この「但馬七花寺霊場」への参加が、その一つの対応策とも言えます。

「花の寺」と言っても

「但馬七花寺霊場」その名の通り、「花」を導入口にして多くの人々にお寺に足を運んでもらおう」と言う考えなのですから、法雲寺の場合、如何せん名物となる「花」が無いところが弱点です。

勿論、徐々には有りませんが、花の準備も進めて居ますが、年中境内を花いっぱいにするには無理な話と言うものです。そうなるとくると頼みの綱は皆さんのご協力(花木の貸出や作業協力等)にすぎないか無いと思っ

ています。また、花の寺を法雲寺境内に限定するのではなく、藩主御廟がある御殿山や坪谷も飛び地境内的なものと見れば、「春の桜、秋の紅葉の名所」がさらに加わります。

「花の寺」と言っても住職一人だけの力ではど

うにもなりません。目指す所は寺院の活性化と、地域に幾らかの賑わいをご提供出来れば、と考えていますので、ご協力・ご提案等お気軽に声を掛けて頂ければ大変に有り難いです。

総代の顔ぶれ決定

任期満了に伴う総代変更で、左記の4名の方々が総代に就任して頂きましたので、ご報告させて頂きます。

*上田 優氏 (会長・殿町)

*山根 福平氏 (副会長・野々上)

*今岡 信正氏 (元総代・鹿田)

*岡田 秀一氏 (元会計・板仕野)

4名の方々には、上記の「但馬七花寺霊場」の件も含めて、4年間お世話になります。どうかよろしくお願い致します。

各種工事修繕のご報告

鬼瓦の交換

昭和57年に檀信徒各位のご協力でご全量葺き替えを行った大屋根ですが、鬼瓦をつなぎ止めているクローム製のボルトが酸性雨の影響を受け腐蝕膨張し鬼瓦を圧迫。鬼瓦に亀裂が生じ、そこに寒暖の変化が加わり亀裂が拡大。今すぐ分解落下とい



遠目には大丈夫そうに見えた旧鬼瓦（右）ですが、降ろしてみると可也亀裂（左）が入っていました。



高い足場を組んでの作業となりました（右）。
取まった新鬼瓦（左）さっぱりとしていて、私は気に入っていますが、さて皆さんの評価は・・・

う訳では無いのですが、その対応は避けて通れず、先の11月下旬に交換工事の準備が整い徳山瓦店さんにて施工して頂きました。
今までの鬼瓦に比べてアツサリした印象の瓦ですが、接合箇所も少なく頑丈な印象です。
尚、旧来の鬼瓦は使える部品を組合せて、徳山瓦店様の協力のもと、モニユメントとして境内に据えよ

庫裏台所等の修理

うと考えています。



庫裏の改修から約25年。まだまだ大きな傷みには遭遇していませんが、流石に日常的に使用する部分では疲労の兆候が出てきました。特に台所では数年前から、所々床板が緩み不安定な所が出てきました。
板が浮いている所を見つけては、補強してきたのですが、緩む所が次から次なので、この度鬼瓦交換の工事と併せて台所の床材張替え及び、流し台交換をさせて頂きました。また、山門脇塀の支柱根元が水分で腐食していたので、コチフも修繕補強して頂きました。その他細かい修理

多数：今岡工務店様には細かい仕事に関わらず丁寧に仕上げ頂き感謝です。



根元が腐って支柱の役目を果たさず。

木炭のご提供

師走の玄関は寒いもの、年末のご挨拶に来られる方の為にも、玄関の暖を考え、一時ダルマストーブを置いたりしたのですが、壁がススけてしまうので、ココ数年は火鉢で対応しています。



本年は阿瀬徳夫様（新町）から上質の木炭のご提供を頂き、活用させて頂

いています。
夢公社（湯村）と共同で大々的に炭を提供されているとの事。里山の保全と資源の有効活用からも、今後良い炭を焼き続けて下さい。